

## 素材の旅



著者：藤森照信  
発所：新建築社

藤森照信氏は言わずと知れた建築家であり建築史家である。タンポポ・ハウスやニラハウスや高過庵など、自然素材をふんだんに活かした建築が有名である。建築仕上材料を研究対象としている筆者にとっては、尊敬と共にどこか親近感を感じられる建築家の一人である。それは藤森氏が材料に造詣が深く、藤森氏自身も本書のあとがきで「建築よりも建築家よりも、材料の方が好きらしい。自分に合っていたんだろう。知らない材料について知ることは、すばらしい友人が1人増えるような喜ばしさがある。」と書かれ

ている様に、材料が好きだという共通点（共通点と言ってしまうと畏れ多いが）があるからかもしれない。

その藤森氏自らが、16年間かけ各地で自然素材に関する取材を行った。その中から下記の20種類の材料について、その採取、加工から施工に至るまでまとめられたものが本書である。

聚楽土・大理石・スレート・土佐漆喰・鉄平石・青森ヒバ  
ナラ・茅・竹・漆・檜皮・貝灰・クリ・出雲流柿板  
大谷石・千年釘・柿渋・焼杉・島瓦・台湾ヒノキ

特筆すべきは、単なる取材ではなく、藤森氏自らが実際に材料の採取や加工等を行っている点にある。一例として「出雲流柿板」を紹介する。こけら板は原木をまずみかん割りにし、だいたい板状にする。その後徐々にその板を薄く裂くようにして割り、こけら板を得る。筆者もこけら板の加工を見学させてもらったことがあるが、職人さんはそれはそれは鮮やかで手付きで、次々と割っていた。その鮮やかさぶりに、一見すると簡単な作業の見えるが、とんでもない。まず素人はできない作業である。ところが藤森氏は見よう見まねで、とにかくやってみる。それを写真付きで紹介しているのだが、藤森氏の表情から、例えば檜皮剥がしは非常に難しそうだな、などと想像するのもまた楽しい。

工業化製品が主流となっている現代において、あえて自然素材のみに特化した本書では、特有の温もりや涼しさを感じる。夏の暑い時期に、味わい深い自然素材の世界にどっぷりとハマってみるのはいかがだろうか。

(石原沙織)